

K-587

米沢市埋蔵文化財調査報告書 第96集

# 遺跡詳細分布調査報告書

## 第22集

包藏地内分布調査

公共事業関連分布調査

大規模開発分布調査

東部地区分布調査

南部地区分布調査

2009

米沢市教育委員会

# 遺跡詳細分布調査報告書

## 第22集

包 藏 地 内 分 布 調 査

公 共 事 業 関 連 分 布 調 査

大 規 模 開 発 分 布 調 査

東 部 地 区 分 布 調 査

南 部 地 区 分 布 調 査

2 0 0 9

米沢市教育委員会

# 序 文

本報告書は、米沢市教育委員会が平成20年度に国庫補助事業として実施した『遺跡詳細分布調査』の成果をまとめたものです。

米沢市教育委員会は、埋蔵文化財の周知を図るため、昭和62年度から遺跡詳細分布調査を継続して実施しており、調査を重ねることによって地域文化の解明と埋蔵文化財の保存保護につなげております。

今年度の遺跡詳細分布調査では、個人住宅等開発、大規模開発にかかわる試掘調査を実施しました。また、本市の北西部に位置する六郷町の砂利採取に伴う試掘調査によって新たな遺跡確認することができました。調査に際しての関係各位のご理解とご協力の賜物と感謝申し上げるとともに、今後とも開発事業に円滑な調整を図り、可能な限り力を注いでいく所存であります。

最後になりましたが、調査に際しご指導賜りました文化庁および山形県教育庁文化遺産課に対し、深甚の謝意を表します。

2009年3月

米沢市教育委員会

教育長 原 邦 雄

## 例　　言

- 1 本報告書は、文化庁の補助を受けて実施した、平成 20 年度の遺跡詳細分布調査報告書である。
- 2 調査は米沢市教育委員会が実施した。
- 3 調査期間 平成 20 年 4 月 4 日から平成 21 年 3 月 31 日
- 4 調査体制は下記の通りである。

調査主体	米沢市教育委員会
調査総括	村野 隆男（教育管理部文化課長）
調査担当	手塚 孝（教育管理部文化課文化財主査）
調査主任	菊地 政信（教育管理部文化課主査）
調査参加者	近野 慶子 斎藤 精一 新藤伊勢夫 丸山 忠俊
事務局長	佐藤 孝市（教育管理部文化課長補佐）
事務局	青木 千尋（教育管理部文化課主任）
調査指導	文化庁 山形県教育庁文化遺産課

- 5 挿図の縮尺は、1万分の1、その他についてはスケールで示した。調査箇所についてはドットや実線で示した。第 27 図以外は上部が真北である。第 27 図の真北方向については図に示した。挿図内の図化及び記号は、DY-土壤、KY-溝状遺構、P-ピット、T-トレンチを示す。
- 6 本書の作成は菊地政信が担当し、近野慶子が補佐した。全体については手塚孝が総括した。
- 7 調査に際しては、関係各位のご協力を得た。記して感謝申し上げます。

## 本文目次

### 序文

### 例言

### 第I節

1. 開発に伴う分布調査の概要	1
2. 包蔵地内分布調査（民間による開発）	3
館山平城跡	3
米沢城跡	3
台坂遺跡	3
金谷a遺跡	3
米沢城東二の丸跡	3
松原遺跡	3
普門院遺跡	5
古郷部遺跡	5
東屋敷遺跡	5
春日町遺跡	5
上窪遺跡	5
3. 包蔵地内分布調査（公共事業）	7
前在家遺跡	7
小谷地遺跡	7
4. 大規模開発に伴う分布調査	8
芳泉町地内	9
窪田町窪田地内	9
窪田町窪田地内	9
塩井町塩野地内	9
窪田町窪田字前川原地内	9
中田町字外ノ内地内	11
石田遺跡	12
大塙C遺跡	15
広幡町成島地内	16
第II節 東部地区分布調査	17
谷ノ口館	22
第III節 南部地区分布調査	23
報告書抄録	26

## 付表目次

表1 包蔵地内分布調査	2	表2 公共工事関連分布調査箇所	2
-------------	---	-----------------	---

表3 大規模開発分布調査箇所	2
----------------	---

## 挿図目次

第1図 館山平城試掘調査箇所位置図	4
第2図 米沢市城跡試掘調査箇所位置図	4
第3図 台坂遺跡試掘調査箇所位置図	4
第4図 金谷a遺跡試掘調査箇所位置図	4
第5図 米沢市城東二の丸跡試掘調査箇所位置図	4
第6図 松原遺跡試掘調査箇所位置図	4
第7図 普門院遺跡試掘調査箇所位置図	6
第8図 古郷部遺跡試掘調査箇所位置図	6
第9図 東屋敷遺跡試掘調査箇所位置図	6
第10図 春日町遺跡試掘調査箇所位置図	6
第11図 上窪遺跡試掘調査箇所位置図	6
第12図 前在家遺跡試掘調査箇所位置図	7
第13図 小谷地遺跡試掘調査箇所位置図	7
第14図 石田遺跡試掘調査箇所位置図	8
第15図 芳泉町地内試掘調査箇所位置図	9
第16図 雉田町窪田地内試掘調査箇所位置図	9
第17図 雉田町窪田地内試掘調査箇所位置図	9
第18図 塩井町塩野地内試掘調査箇所位置図	9
第19図 雉田町窪田字前川原地内試掘調査箇所位置図	10
第20図 中田町字外ノ内地内試掘調査箇所位置図	11
第21図 石田遺跡トレンチ配置図	13
第22図 石田遺跡トレンチ遺構配置図	14
第23図 大壇C遺跡試掘調査箇所位置図	15
第24図 広幡町成島地内試掘調査箇所位置図	16
第25図 米沢市東部地区分布調査位置図	18
第26図 戸塚山金ヶ崎古墳群M34号墳現況全体図	19
第27図 戸塚山金ヶ崎古墳群M34号墳遺物出土点位置図	20
第28図 戸塚山山崎古墳群M179号墳現況測量図	21
第29図 谷ノ口館跡略側図	22
第30図 米沢市南部地区分布調査箇所位置図	24
第31図 詳細分布調査出土遺物実測、拓影図	25

## 図版目次

第一図版 大規模開発分布調査 第二図版 東部地区分布調査

第三図版 大規模開発分布調査・立会い調査・詳細遺跡分布調査出土遺物

## 第Ⅰ節 開発に伴う分布調査

### 1 開発に伴う分布調査の概要

平成20年度に本市教育委員会に、住宅開発などによって埋蔵文化財に係わることから、協議や分布調査等の確認依頼を受けたのは、平成21年2月28日現在27件あった。

この中で、埋蔵文化財包蔵地（遺跡）及び包蔵地以外を含め、試掘調査・立会い調査・現地確認調査を実施した内訳は下記のとおりである。

(1) 住宅建設に係わるもの	11件	(2) 店舗建設に係わるもの	3件
(3) 砂利採取に係わるもの	3件	(4) 宅地開発に係わるもの	1件
(5) 公共事業に係わるもの	2件	(6) その他の開発等に係わるもの	7件

この中で試掘調査（立会い調査含む）を実施したのは18件あり、種別としては例年と同様住宅開発に係わるものが最も多く認められた。次いで多かった公共事業が2件と激減したのが特徴的である。

上記の包蔵地内分布調査箇所については、大規模開発と区別し調査箇所・調査月日・開発種別・調査方法を表1に一括し、遺跡位置図と調査地点を第1図～13図にまとめた。

今年度は、包蔵地内分布調査によって遺構・遺物が確認されたことから、発掘調査の実施に至ったものはなかった。

包蔵地内分布調査の依頼は19件であった。個人の住宅に関係するものが大半であり、小範囲の試掘であった。調査箇所において、遺物は確認されなかつたが、遺構に関しては後世の削平や搅乱による消滅が認められた。これは、米沢市内に点在する遺跡であることや、現在の家を解体し、同じ場所に建設する場合が多いことが要因のひとつに上げられる。

公共事業としては、水道管理設・側溝改修がある。水道管理設は水道管の入替え工事であり、大半の箇所は搅乱層であった。

大規模開発は、遺跡範囲ではないが概ね1,000m<sup>2</sup>以上の開発範囲を対象として試掘調査を実施した。砂利採取や宅地造成に伴うものであり、新たに発見された遺跡としては、砂利採取範囲の「石田遺跡」がある。

この新発見の遺跡は、米沢市北西部郊外に広がる水田地帯に位置する。偶然にも基盤整備が遅れた地域であり、自然の地形が残っていた。出土遺物から、平安時代と判断され、砂利採取範囲以外にも遺跡が広がることが判明している。

遺跡が分布する砂利採取範囲については関係者と協議した結果、現状保存することに決定した。

これらの調査の他に、今年度は東部及び南部を中心に詳細分布調査を実施し、中世の塚群や館跡の縄張図を作成した。調査は現地踏査を主体としたものであり、目に映る風景は耕作を中止した果樹園・水田・畑、或いは崩壊した神社が際立っていた。

また、埋立地が遺跡範囲にせまっている地域や、工事によって遺構が変容を余儀なくされた箇所が認められた。これらの箇所については、関係者に遺跡範囲であることを説明して協力を求めた。

表1 包蔵地内分布調査箇所(民間による開発)

No.	遺跡名	調査箇所	調査月日	種別	調査方法	備考
1	館山平城	館山1-1-51	2008年 3月 5日	個人住宅	トレンチ	1m×3m 1本
2	米沢城跡	城南1丁目6-72	4月 7日	個人住宅	トレンチ	1m×2m 1本
3	台坂	下花沢3丁目地内	4月28日	個人住宅	グリット	1m×1m 1箇所
4	金谷a	万世町堂森451~4	4月30日	物置	現地踏査	
5	米沢城東二の丸跡	門東町1丁目6581番1外	5月16日	個人住宅	ボーリング探査	
6	松原	大字三沢26109-85番地	5月19日	個人住宅	現地踏査	
7	米沢城東二の丸跡	門東町1丁目4-56	5月20日	個人住宅	現地踏査	
8	普門院	大字開桜寺坊往前1400-2一部外	5月23日	個人住宅	現地踏査	
9	米沢城跡	丸の内1丁目1-23	7月16日	店舗併用住宅	現地踏査	
10	古郷部	大字長手字古館山3880外	8月 7日	クレー射撃場	トレンチ	1.5m×10~30m 2本
11	東屋敷	大字竹井中の目531-1	9月17日	公民館	グリット	1m×1m 1箇所
12	米沢城跡	城南1丁目1-23	10月10日	個人住宅	グリット	1m×1m 1箇所
13	春日町	春日町3899-2	10月15日	個人住宅	グリット	1m×1m 1箇所
14	上塙	万世町持町字中ノ在家1915-1	11月21日	個人住宅	グリット	1m×1m 3箇所
15	米沢城東二の丸跡	門東町2丁目3029-5	11月25日	個人住宅	グリット	1m×1m 1箇所
16	東屋敷	門東町2丁目3007-1外	11月28日	工場	グリット	1m×1m 1箇所

表2 公共事業関連分布調査箇所

No.	遺跡名	調査箇所	調査月日	種別	調査方法	備考
1	前在家	大字李山字前ノ在家2732他	2008年 7月28日	配水管布設	立会い調査	平成21年2月3日
2	小谷地	万世町桑山750番地	12月24日	水路整備	立会い調査	平成21年2月6日

表3 大規模開発分布調査箇所

No.	遺跡名	調査箇所	調査月日	種別	調査方法	備考
1	該当なし	大字芳泉町御鹿野道間1016他	2008年 4月 7日	駐車場	現地踏査	
2	該当なし	蓬田町蓬田町渋谷1188番地	5月29日	駐車場	現地踏査	
3	該当なし	蓬田町蓬田2110番地他	9月 3日	駐車場	現地踏査	
4	該当なし	蓬田町蓬田字前川原地内	10月24日	宅地造成	トレンチ	2m×3~10m 4本
5	該当なし	中田町字外ノ内地内	11月 5日	宅地造成	トレンチ	2m×10~20m 3本
6	石田	六郷町一渡字伊後田地内	11月6日~11月11日	砂利採取	トレンチ	4本
7	該当なし	塩井町塩野字川在家5050外	11月25日	砂利採取	トレンチ	2m×3m 6本
8	大堰C	大字笠野字船平	12月26日、1月5日	宅地造成	トレンチ	3本
9	該当なし	広幡町590番1外	1月7日、16日	砂利採取	トレンチ	2m×19~55m 4本

## 2 包蔵地内分布調査（民間による開発）

包蔵地内に於ける民間の住宅建設等に関する試掘調査について以下に述べる。位置図で試掘地点を示した番号と各表の通し番号は符号している。

### 1) 館山平城（米沢市遺跡登録番号G-527）

第1図で示す地点であり、平成20年3月5日に重機を使用して試掘調査を実施した。現況は、畑であり範囲は、幅1m、長さ3mのトレーナーを配して掘下げた。その結果、深さ80cm地点で微砂質層を確認した。この層で掘下げを終了し、精査したが遺構、遺物は検出されなかった。従って、発掘調査は必要ないが、遺跡範囲の開発であり、慎重工事を指示した。

### 2・9) 米沢城跡（米沢市遺跡登録番号N-304）

第2図に示した2箇所について調査を実施した。②の地点は平成20年4月7日に手掘りによって、幅1m、長さ2mのトレーナーを配して掘下げた結果、深さ30cmの地点で整地層を確認し精査したが遺構、遺物は検出されなかった。この面からボーリング棒で下面を確認したところ、深さ100cmで泥炭層に達した。これら事項から考慮して、谷地を整地した箇所であり発掘調査は必要ないが、遺跡範囲であり慎重工事を指示した。

第2図⑨の地点は、平成20年7月16日に現地踏査を実施した。踏査箇所は、平成19年に火災が発生し住宅が延焼したことから、現在空地になっている。今回の箇所は盛土して工事をすることから、下面の遺構には影響がないと判断されるが、遺跡範囲であり慎重工事を指示した。

### 3) 台坂遺跡（米沢市遺跡登録番号D-80）

第3図で示す箇所であり、平成20年4月28日に試掘調査を実施した。この地点は奥羽本線米沢駅の北東に位置し、本遺跡の南西端部の範囲に相当する。現状は空地になっており一部が駐車場として利用されている。

この箇所について1m×1mの範囲で手掘りを実施した結果、礫層で覆われていることが判明した。従って発掘調査は必要ないが、遺跡範囲であり慎重工事を指示した。

### 4) 金谷a遺跡（米沢市遺跡登録番号A-61）

第4図に示す地点であり、平成20年4月30日に試掘調査を実施した。米沢市街地の東方、万世町桑山遺跡群の西南端部に位置する。

現況は休耕田となっており、試掘は耕作土を剥離して土盛りをする作業と併行しておこなった。その結果、黄褐色粘質土で覆われた確認面が耕作土下面から表れた。精査したが遺構や遺物は検出されなかった。試掘範囲は、南北13m、東西16mの208m<sup>2</sup>であった。以上のことから、発掘調査は必要ないが遺跡範囲であり慎重工事を指示した。

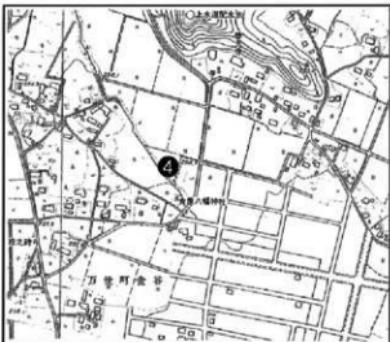
### 5・7・12・15) (米沢市遺跡登録番号N-543)

第5図で示す4箇所の地点であり、今年度最も試掘箇所が集中した遺跡範囲である。⑤の地点は、平成20年5月16日に試掘調査を実施した。試掘箇所は米沢城本丸跡（現在の上杉神社境内）の東側に位置する箇所であり、絵図面では東二の丸に位置する。

現況は宅地であり、古い家を取り壊して新築することから、今回の調査を実施した。取り



第1図 鎌山平城跡試掘箇所位置図



第4図 金谷a遺跡試掘箇所位置図



第2図 米沢城跡試掘箇所位置図



第5図 米沢城東二の丸跡試掘位置図



第3図 台坂遺跡試掘箇所位置図



第6図 松原遺跡試掘箇所位置図

壊しが終了した後にボーリング探査を中心に調査した結果、搅乱層が30cmで次に砂層が50cmの層位が認められた。遺構が存在する粘土層が認められないことから、堀跡の可能性が強いと判断される。従って発掘調査は必要ないが、遺跡範囲であり慎重工事を指示した。

⑦の地点については、平成20年5月20日に現地調査を実施した。住宅を解体し新築する工事であり、宅地が道路よりも低いことから盛土を計画していた。ボーリング探査を実施した結果、搅乱層と泥炭層で占められ遺構が存在する可能性は低いと判断した。よって発掘調査は必要ないが、遺跡範囲であり慎重工事を指示した。

⑧の地点については、平成20年10月10日に試掘調査を実施した。小型の重機を使用して1m×1mの範囲を掘下げた結果、深さ30cmまでは搅乱層であった。今回の開発はこの深さ以上は堀下げないことから発掘調査は必要ないと判断されるが、遺跡範囲であり慎重工事を指示した。

⑨の地点については、平成20年11月25日に重機を使用して試掘調査を実施した。その結果、搅乱層が80cmあり、その下面に黄褐色の粘土層が認められ、柱穴跡が確認された。今回の工事よって掘下げる深さは、110cmでありこの範囲による遺跡への影響はあるが、この開発予定地が市道から50cm低いことから、盛土して工事をする計画である。

従って、確認面までは160cmであることになり遺構は保存されると判断されるが、工事を実施する際は立ち会うことを指示した。同年の12月16日に立会い調査を実施している。

#### 6) 松原遺跡（米沢市遺跡登録番号D-168）

第6図に示した箇所であり、平成20年5月19日に現地踏査を実施した。その結果、以前あった住宅建設の際に確認面まで、削平された状況であった。しかしながら遺跡範囲の工事であり慎重工事を指示した。

#### 8) 普門院遺跡（米沢市遺跡登録番号D-175）

第7図に示した地点であり、平成20年5月23日に試掘調査を実施した。この箇所は普門院境内の北東に位置し、以前に山上児童館があったが近年に移転し現在は空地になっている。

この箇所は、児童館建設の際に盛土がおこなわれ、ボーリング探査によれば50～100cmある。さらに今回の工事は平均に50cmの盛土を計画しており、下面の確認面には影響ないものと判断される。したがって発掘調査は必要ないが、遺跡範囲であることから慎重工事を指示した。

#### 10) 古郷部遺跡（米沢市遺跡登録番号A-1）

第8図で示す箇所であり、平成20年8月7日に試掘調査を実施した。広範囲であることから、重機を使用しT1は長さ30m、幅1.5m、T2は長さ10m、幅1.5mを配して掘下げたが遺構、遺物は検出されなかった。

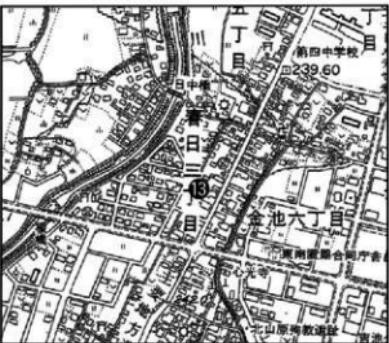
発掘調査は必要ないが、遺跡範囲の工事であり慎重工事を指示した。

#### 11・16) 東屋敷（米沢市遺跡登録番号A-345）

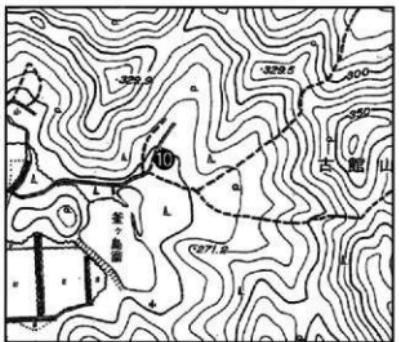
第9図で示す2箇所の地点であり、⑪については平成20年9月17日に試掘調査を実施した。この地点は遺跡範囲の南端に位置し、周囲は水田地帯である。現状は、駐車場になって



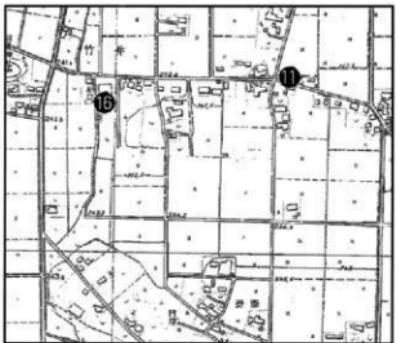
第7図 普門院遺跡試掘箇所位置図



第10図 春日町遺跡試掘箇所位置図



第8図 古郷郡遺跡試掘箇所位置図



第9図 東屋敷遺跡試掘箇所位置図



第11図 上窪遺跡試掘箇所位置図

おり、アスファルトで覆われていた。この箇所について、重機を使用し掘下げたところ直下で礫層が確認されたことから、埋立地と判断した。以上のことから、発掘調査は必要ないが遺跡範囲であり、慎重工事を指示した。

#### 13) 春日遺跡（米沢市遺跡登録番号J-371）

第10図で示す箇所であり、平成20年10月15日に小型の重機を使用し、1m×1mの範囲を堀下げた。その結果、50cmの搅乱層の下面に黄褐色微砂質土を確認した。

この層からは、遺物や遺構は認められず発掘調査は必要ないが、遺跡範囲であり慎重工事を指示した。

#### 14) 上窪遺跡（米沢市遺跡登録番号A-393）

第11図で示す箇所であり、平成20年11月21日に試掘調査を実施した。1m×1mの範囲で3箇所を実施した結果、50cmが搅乱層であり直下に包含層と推測される黒褐色微砂質土を確認した。この面からは、遺物、遺構は認められなかった。

今回の工事による堀下げは30cmであり、この範囲では包含層の面に影響はないとの判断されるが、遺跡範囲であり、慎重工事を指示した。

### 3 包蔵地内分布調査（公共事業）

#### 第12図 前在家遺跡（米沢市遺跡登録番号E-128）

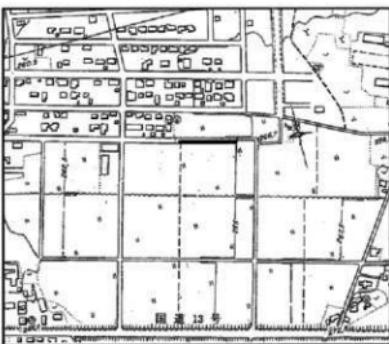
遺跡範囲の西方端部に位置する市道に埋設してある、水道管の取替え工事に係わるものであり、平成21年2月2日に立会い調査を実施した結果、堀下げる範囲の大半が搅乱層であったが、遺跡範囲であり慎重工事を指示した。

#### 第13図 小谷地遺跡（米沢市遺跡登録番号A-56）

この箇所については、平成21年2月6日に立会調査を実施した。農道に伴う側溝にコンクリート製のヒュウム管を設置する工事であり、現況面からの堀下げは20~30cmでありこの範囲は耕作土であることから、遺跡の影響はないものと判断されるが、遺跡範囲の工事であり慎重工事を指示した。



第12図 前在家遺跡試掘調査区位置図



第13図 小谷地遺跡試掘調査区位置図

#### 4 大規模開発に伴う分布調査

表3に示した箇所であり、9箇所について現地踏査や試掘調査を実施した。6の石田遺跡は今年度新たに発見した遺跡で第14図に場所を示した。遺跡範囲や保存地区については、後で述べる。表の番号と位置図の番号は符号しており、砂目のスクリーントン箇所が開発範囲である。

##### 1) 芳泉町地内（第15図）

開発予定地の現況は、雑木林であり雪解けをまって平成20年4月7日に調査を実施した。その結果、雑木が伐採され重機を使用して搬出した痕跡が認められた。ポーリング探査によるとすべての箇所で下面に礫層があることから、旧河川跡と判断される。

また、踏査によって遺物は認められなかったことから、遺跡が存在しない地域と判断される。従って、開発範囲において発掘調査は必要ないが工事期間において、遺物や遺構を発見した場合は教育委員会に連絡するよう指示した。

##### 2) 墟田町塙田地内（第16図）

開発予定地の現況は、休耕田であるが昨年まで水田として耕作されていた。今回分布調査を実施した地域の西部には寶鏡塙古墳、東方には八幡塙古墳が所在する。

調査は、平成20年5月29日に現地踏査を実施し、次いでポーリング探査の結果、すべて



第14図 石田遺跡試掘箇所位置図



第15図 芳泉町地内調査区位置図



第17図 窪田町窪田地内調査区位置図



第16図 窪田町窪田地内調査区位置図



第18図 塩井町塩野地内調査区位置図

の箇所で泥炭層であった。よって発掘調査は必要ないが、工事期間に遺物や遺構を発見した場合は教育委員会に連絡するよう指示した。

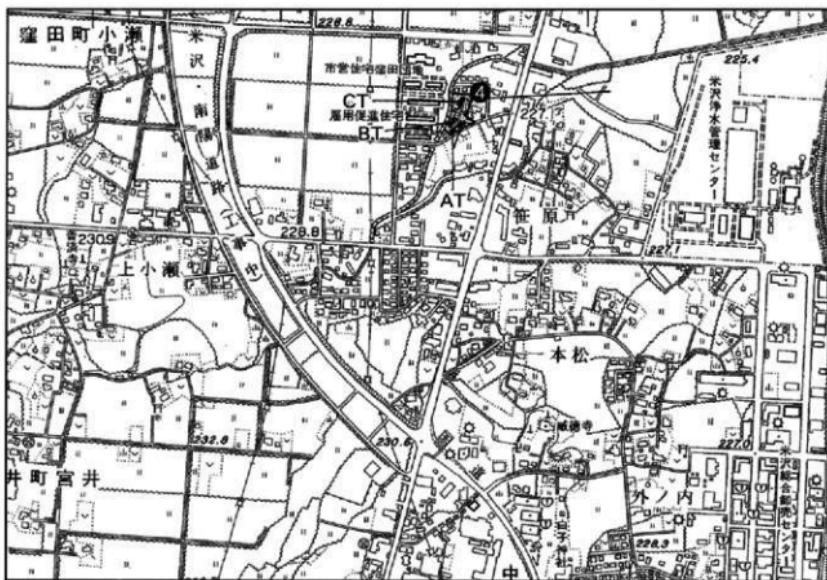
### 3) 窪田町窪田地内（第17図）

平成20年9月3日に現地踏査を実施した。段丘下の低地が開発範囲であり、地形や踏査の結果から、河川跡と想定され遺構や遺物は存在しないと判断した。よって発掘調査は必要ないが、工事期間に遺物や遺構を発見した場合は教育委員会に連絡するよう指示した。

### 7) 塩井町塩野地内（第18図）

開発予定地の現況は水田であり、区画整理を実施した地域である。試掘調査は重機を使用し掘り下げた結果、耕作土は南側が40cmで北に向かうに従ってやや浅くなり、北方端部では20cmの深さであった。

耕作土の下面是礫層であり、遺物や遺構は認められなかったが採取期間に遺構や遺物を発見した場合は教育委員会に連絡するよう指示した。



第19図 窪田町窪田字前川原地内調査区位置図

#### 4) 窪田町窪田前川原地内（第19図）

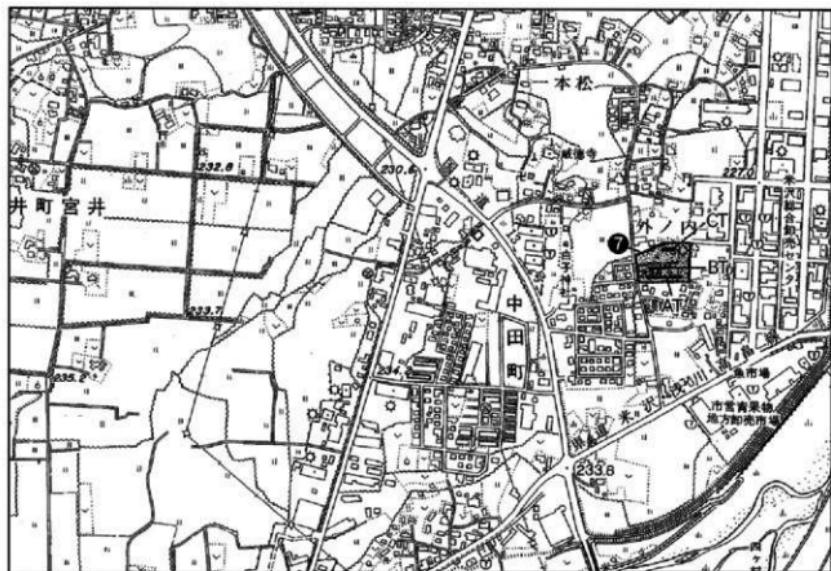
開発予定地は米沢市の北方部に位置し、東方には奈良時代を中心とする笹原遺跡が立地する。（現在の米沢浄水管理センター）現況は、畠及び宅地、原野であるが宅地箇所については、すでに解体され空地になっていた。試掘調査は重機を使用して、平成20年10月24日に実施した。図で示すトレーニチを3箇所設定し掘り下げた。

南側のAトレーニチ箇所は、現況が畠であり耕作土の下面是疊層であった。この面からの遺物や遺構は検出されなかった。

西側のBトレーニチ箇所も現況は畠であり、Aトレーニチと同様な層位であった。よって遺構や遺物は認められなかった。

北方に位置するCトレーニチの地区は、以前は宅地があった箇所であり今回の試掘範囲の中では、最も高地に位置する。試掘調査の結果、近世の遺構が認められ、陶磁器も数点出土している。

これらの遺構や遺物は、確認面から判断して解体した宅地に関連するものであり、発掘調査は必要ないが、工事期間中に遺物や遺構を発見した場合は教育委員会に連絡するよう指示した。



第20図 中田町字外ノ内地内調査区位置図

##### 5) 中田町外ノ内地内（第20図）

米沢市の東方を南北に縦断する国道13号線が県道米沢・浅川・高畠線と交差する地域の北東に位置する。この地域の西南には、奈良時代を中心とする大浦遺跡群が所在する。この遺跡群は、官衙推定地として注目され漆紙文書が出土したことで知られている。

今回の試掘調査は平成20年11月5日に、重機を使用して実施した。現況は水田であり南側からA～Cの3箇所について堀下げた。Aトレンチ箇所は、青褐色の耕作土、下面は暗黄褐色の堆積土で占められ最下層は礫層である。この箇所からは、遺物や構造は検出されなかった。Bトレンチは、調査区の中央部に位置する。Aトレンチと同様な状況であったことからAトレンチの半分の長さで堀下げを中止した。

Cトレンチは、調査区の北方端部で住宅地と畑・果樹園が隣接する。この箇所と調査区との比高差は約1mあり、周囲の状況から自然地形と判断される。C区も他の地区と同様に最下層は礫層であった。

これらの試掘結果から、今回の調査区には構造、遺物は存在しないと考えられる。したがって、発掘調査は必要ないが開発中に構造や遺物を発見した場合は教育委員会に連絡するよう指示した。

## 6) 石田遺跡（第14・21・22・30図）米沢市遺跡登録番号I-669

米沢市六郷町一塗地内の砂利採集に関連する試掘調査によって今年度に新規に発見された遺跡である。六郷町は本市の北部に位置する田園地帯であり、川西町と隣接する地域である。今回試掘調査を実施した箇所も水田であるが、区画整理が実施されていない箇所であったことが新規発見の要因のひとつに挙げられる。

第21図で示すように、開発範囲の両端を小川が流れており周辺には神社・寺院が所在する地域である。

調査は、平成20年11月6日～同年11月11日の期間で実施した。第22図に示したのがトレーンチ配置図であり、A～Dの4箇所に配して掘下げを行い、遺構が確認されたAトレーンチとBトレーンチについては遺構の一部を掘下げた。

最長のAトレーンチは、北から掘下げを開始したところ、保存地域とした南方の破線から南方に遺物や遺構を検出した。そのため東西にBトレーンチを配し、遺跡の広がりを確認した。その後、開発区の東側にCトレーンチとDトレーンチ配し調査を実施した。

これらのトレーンチから遺跡の範囲が明確になってきたので、保存地区とした南側に破線を設定した。さらに、周囲の地形を加味して点線で示したのが遺跡範囲であり南北200m、東西100mの20,000m<sup>2</sup>と推測される。

遺構は、Aトレーンチを中心に検出され、KY1とした溝状遺構1基、DY1・2とした土壙2基の計3基が認められ、これらの遺構はトレーンチ幅1mの範囲で掘下げた。

KY1はAトレーンチの南端に位置し幅は上場で60～80cm、下場で30～40cmで断面形態は「U」字形に掘り込まれ、深さは30cmを有する。人工堆積であり、覆土は3層確認された。堆積土に混入して須恵器や土師器が出土している。この溝状遺構は北東及び南西に延びると推測され、今回が小範囲にも係わらず多量の遺物が出土している。遺跡範囲から考慮すれば今回の調査区は北端部に位置することから、この溝状遺構は遺跡の中心部から延びると推測される。

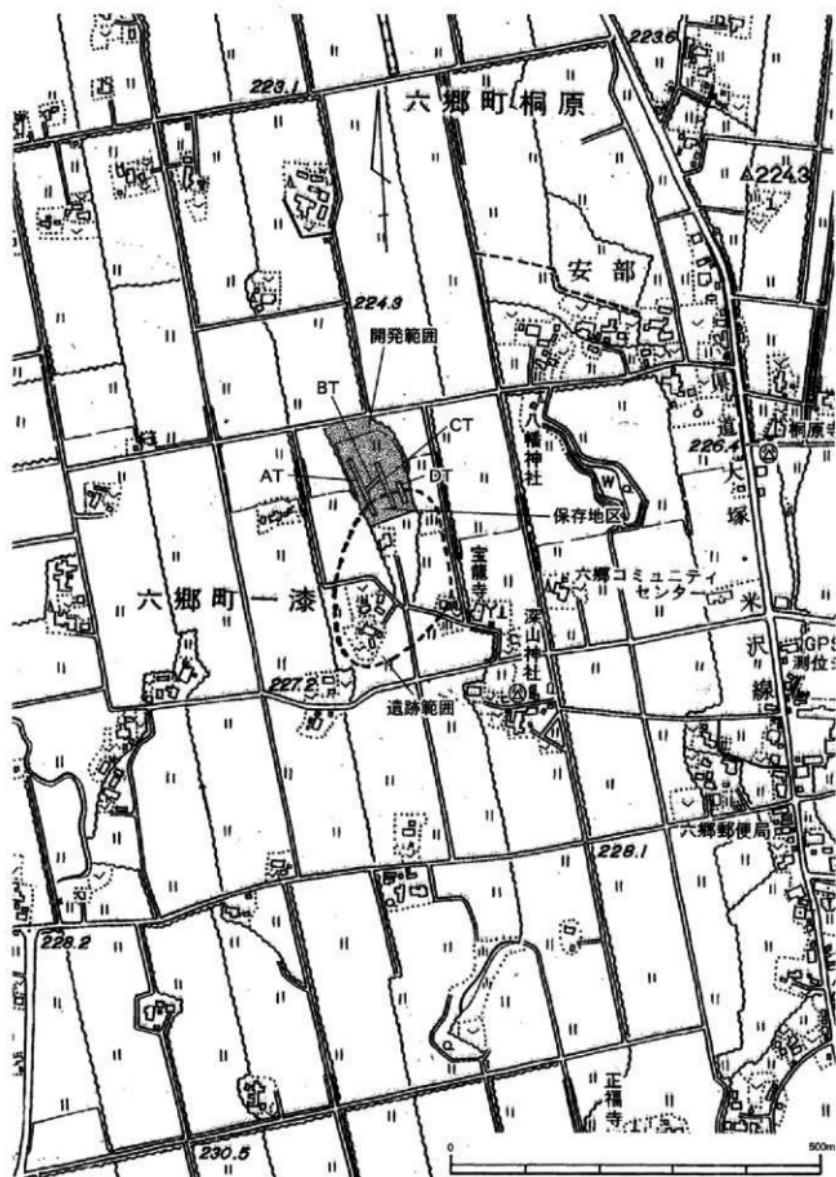
DY1は、前述した遺構の北方に隣接する土壙であり、長径1mを有する平面形状でありレンズ状に掘り込まれ深さは20cmを測り、覆土は人工堆積であった。覆土からは数点の須恵器片、微量の土師器片が出土している。遺物の出土状況や土壙の形態から、ゴミ捨場のために掘られた土壙と推測される。

DY2は、BトレーンチとCトレーンチが交差する地点で検出された。長径170cm、短径90cmを測る楕円の平面形状で、深さが80cmある大型の土壙である。覆土は他の遺構と同様に人工堆積であり、遺物は須恵器を中心に出土している。DY1に類似する土壙と考えられる。

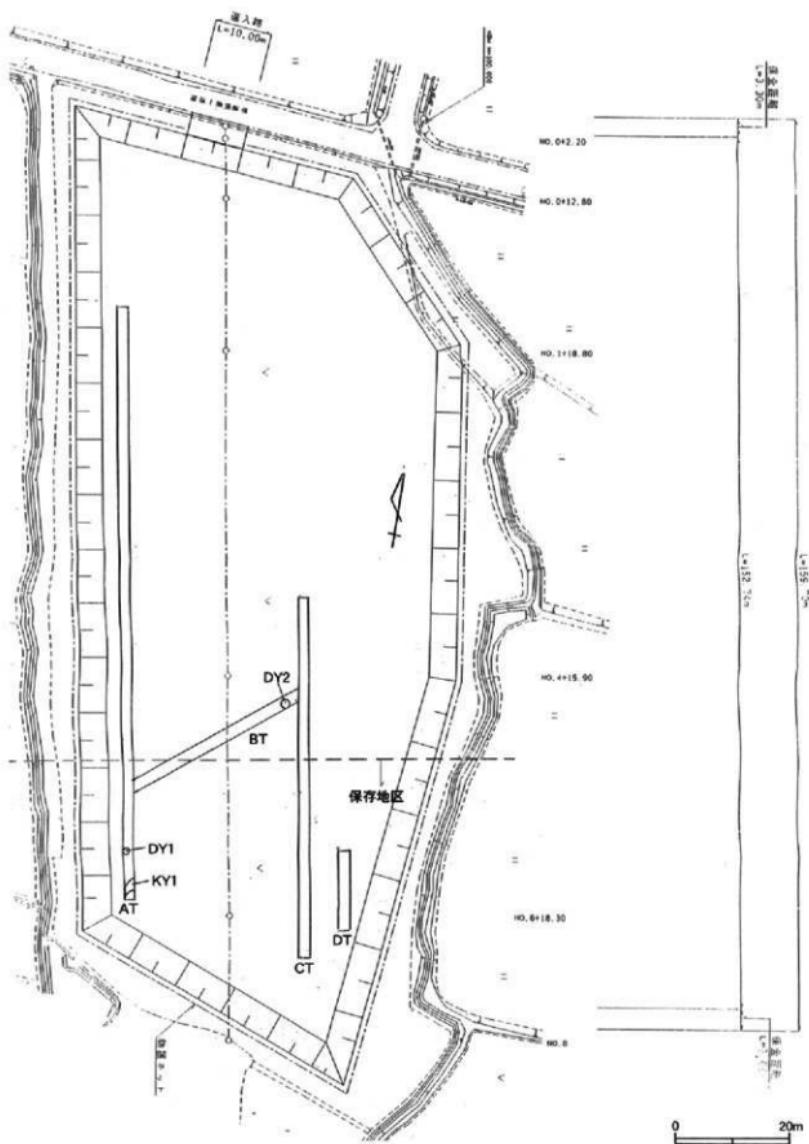
出土した遺物は、壺の形態から平安時代に併行するものであった。遺物の中には風字硯の破片も検出されている。

試掘結果を踏まえ、関係者と協議し開発地区的遺跡範囲については、現況保存することになった。また、遺跡発見届けを山形県教育委員会に提出した。

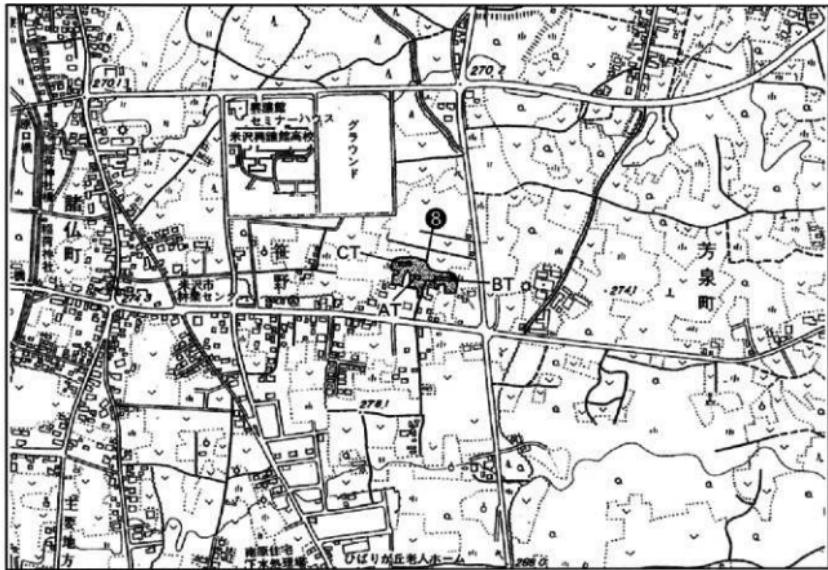
米沢市の遺跡登録番号はI-669である。



第21図 石田遺跡トレーンチ配置図



第22図 石田遺跡トレンチ遺構配置図



第23図 大塙C遺跡調査区位置図

#### 8) 大塙C遺跡（第23図）米沢市遺跡登録番号E-406

本遺跡が所在する地域は、米沢市の南端、吾妻連峰を源として北流する松川によって開析された松川扇状地扇央部に位置する。笹野山の東麓、洪積世沖積土に覆われた低地性の段丘状を呈し、北西方向へ傾斜しており、標高270m前後を計る。

調査区周辺は、畑地、原野、宅地となっており、南に雄大な吾妻山系を遠望する緑豊かな自然環境を保っている。

遺跡の発見は、昭和58年(1983)に山形県立米沢興譲館高等学校が笹野地区に計画された段階で、山形県教育委員会が実施した試掘調査によって発見された。遺跡の一部は、建設工事の用地に伴う発掘調査として、翌年の昭和59年に実施された。遺跡の年代は、縄文時代前期末葉と報告されている。

今回の開発地域は、遺跡範囲の東南端に位置する。試掘調査は平成20年12月26日と平成21年1月5日の2日間、重機を使用して実施した。図で示した3箇所にトレーニングを配し掘下げた結果、表土下30~40cmで確認面に達する。この面は黄褐色の砂利層であり、Bトレーニングの箇所に溝状構造を確認したが、遺物は検出されなかった。構造は覆土から中・近世と推測される。以上のことから宅地造成の際は立会い調査を指示した。



第24図 広幡町成島地内調査区位置図

#### 9) 広幡町成島地内（第24図）

図で示すように、試掘調査を実施した箇所は、JR米坂線成島駅の南東に位置し周辺は水田が広がる田園地帯である。西方には成島古墳群が所在する標高327.2mの通称御嶽堂山が望める。古墳群は6基で、主軸長60mの前方後円墳1基、他は15~23mの方墳で構成される。古墳群は、平成3年（1991）に測量調査、平成12年に試掘調査が実施された。

試掘調査は、平成21年1月7日～同年1月16日の期間で実施した。最初にAトレーニング調査した結果、調査区の東部地区を中心にピット群を検出したので、B・C・Dの各トレーニングを配した。その結果、Bトレーニングから土師器1点と2基のピットを確認したが、外のトレーニングからは認められなかった。ピットは精査の結果、削平され浅いものであった。形態から近世と判断される。

区画整理が実施された地域であり、工事の影響で搅乱が著しい箇所も確認された。遺物も搅乱層に混入したと推測される。周辺に古墳時代の遺跡が存在をする資料と考えられ、地形から西南方向であろう。

これらの調査成果から、他に遺構や遺物が発見される確率は低いが、搅乱層に遺物が混入している可能性があり、砂利採集期間に発見した場合は連絡するよう指示した。

## 第II節 東部地区分布調査

第25図で示した3箇所について現況図作成や試掘調査を実施した。第26・27・28図は戸塚山に分布する古墳群である。第29図は矢ノ口館の縄張図であり、山形県教育委員会が昭和63年～平成6年度に実施した中世城館跡調査の際には未確認であった。これらの成果について下記に述べる。

古墳群が点在する戸塚山は米沢市の北東の位置する独立丘陵であり、米沢盆地のどこからでも展望できる。この山は緑で覆われていたが、近年になって松食い虫の被害を受けたことから、伐採がおこなわれた。それに伴う環境の変化によって、古墳群への影響が懸念されることから分布調査を実施した。

今年度は、西側の金ヶ崎古墳群M 34号墳と東側の山崎古墳群M 179号墳について実施した。前者は平成20年7月30日～同年9月1日の期間、後者は同年9月24日～同年10月8日の期間で実施した。

### ○金ヶ崎古墳群M 34号墳（45基の南方に開口する横穴式石室の円墳で構成）

第26図で示すように、石段の存在が特徴である。この石段については、ブドウ園説もあることから、現況図を作成した。石段は8段あり最上地には石を配置しない階段が設置されている。東南部の隅にM 34号墳が位置し、石段の範囲には3基の円墳が所在する。

第27図には、今回の調査期間に出土した遺物の出土点を示した。遺物の大半は落葉の除去によって検出された。須恵器、土師器の破片であり8世紀中葉の遺物である。石室や墓道の窪み箇所に、松食い虫の被害を受け伐採した木材が置かれたため積石が崩壊した箇所も認められた。

これらの積石は、図面をとりながら取り上げた。また崩落した土砂については、土嚢袋にいれて積み上げた。

周溝と墓道の箇所にトレンチを配し、掘下げた。周溝箇所は、搅乱層が認められ遺物のなかには近世の金属物もあった。墓道の箇所では、南側斜面には積石は認められなかった。

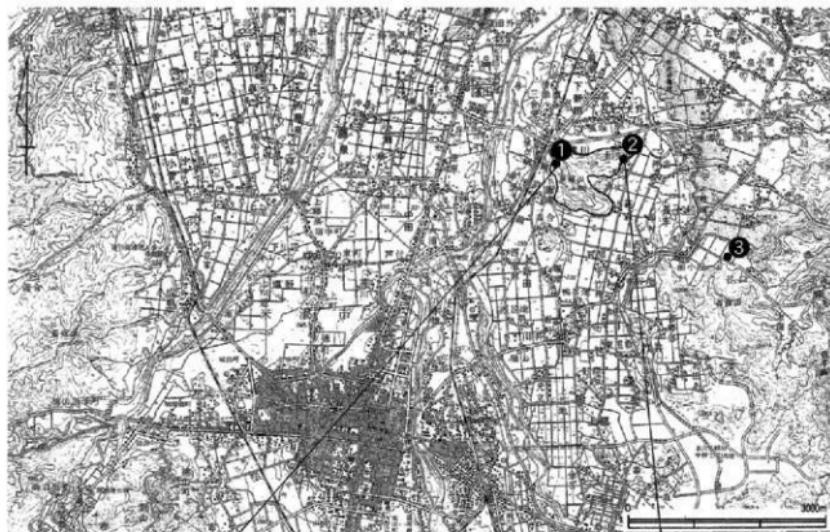
調査の終了後は、崩落した土を詰めた土嚢袋で主体部を中心に積上げ、積雪による崩落に備えた。

### ○山崎古墳群M 179号墳（7基の竪穴式石室の円墳で構成）

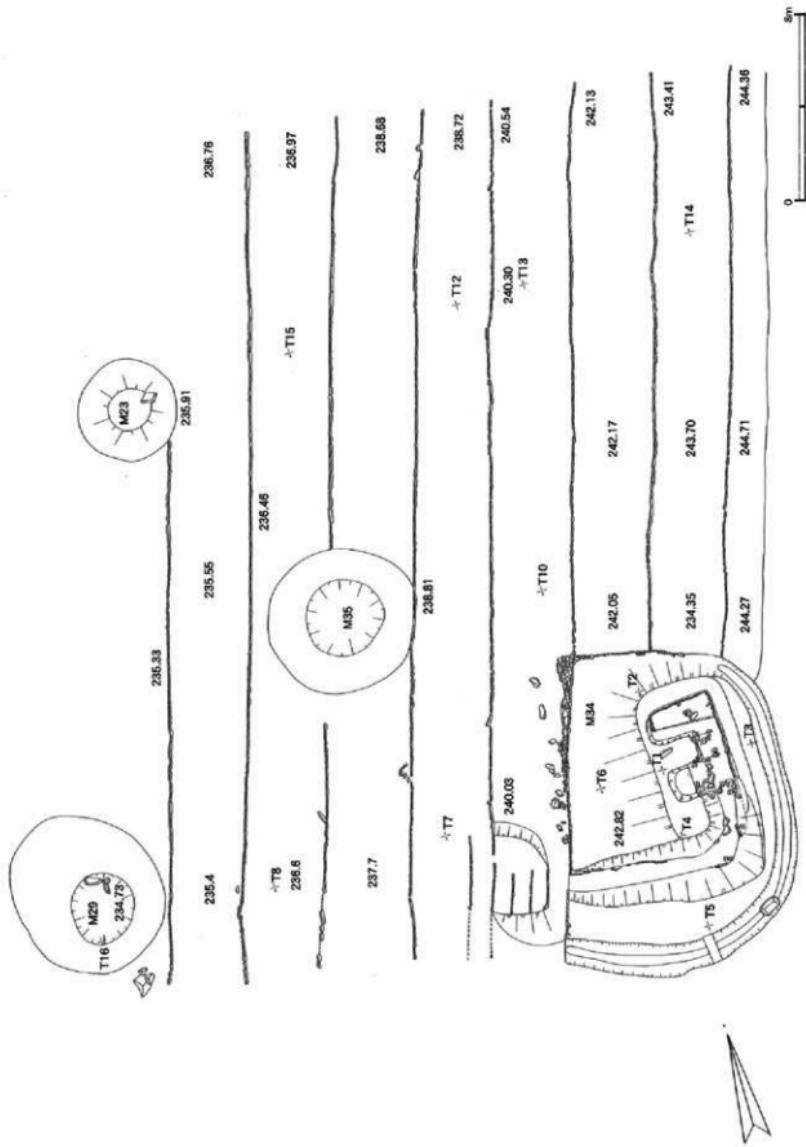
第28図に示したのが、現況図であり中央部が試掘によって大きく陥没した状況をていしている。この箇所には松の大木があったが、現在は伐採され試掘箇所に根元が残っている。

今回の調査は、現況図を作成後に西と東の周溝箇所のトレンチを配し掘下げた。その結果土師器片の他に縄文土器・石器・剥片が多数出土した。縄文土器は早期から中期までの土器群であった。石器は磨製石斧や範状石器であり、集落が存在したと想定される。土師器は小破片で占められるが、出土状況から古墳の年代に密接に関連する遺物と判断した。調整手法から5世紀の範疇であろう。

トレンチ調査によって、西側については明確に墳麓線を把握できたが、東側については不十分であった。調査終了後は現況に埋め戻した。

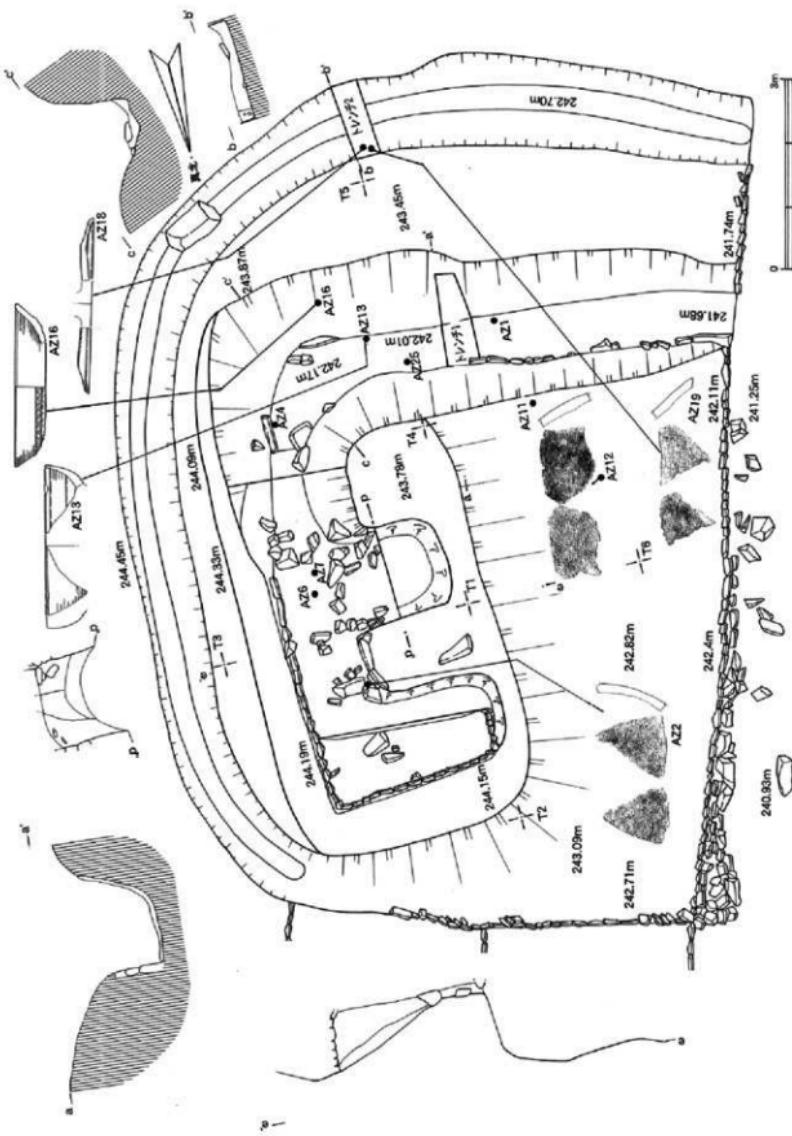


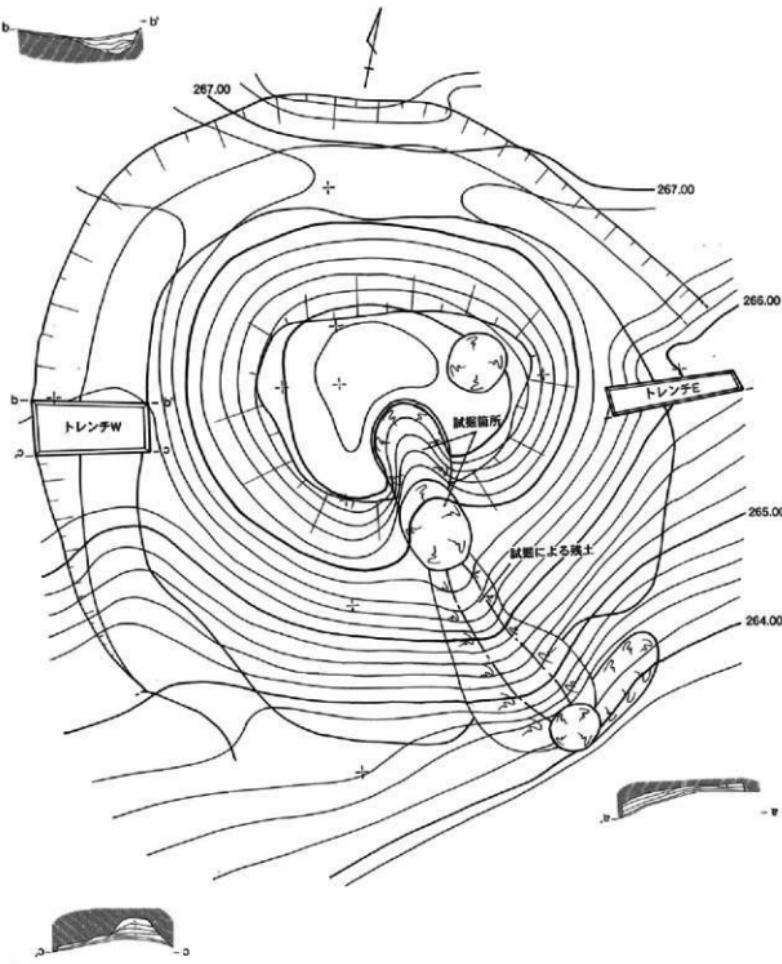
第25図 米沢市東部地区分布調査位置図



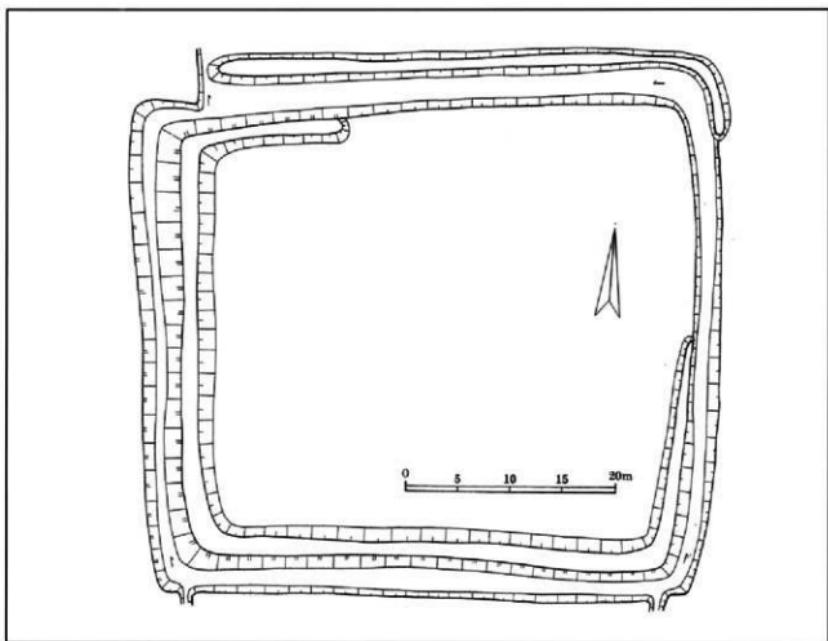
第26図 戸塚山金ヶ崎古墳現況全体図

第27図 戸塚山金ヶ崎古墳群M34号墳遺物出土点位置図





第28図 戸塚山山崎古墳群M179号墳現況測量図



第29図 谷ノ口館跡略測図

#### 矢ノ口館跡（米沢市遺跡登録番号A-621）

第25図で示すように、古館山の北側に開けた低地に位置する。館の現況は植林された杉林になっているが、それ以前は畠として耕作されていた。館跡に隣接する水田が残土置場となっており、館跡の土壘近くに残土がせまっていた。

これらの状況から、土地所有者に事情を確認したところ、杉林と水田の土地所有者が別であり、これ以上の埋立ては進行しないことを確認した。

今回の縄張図は、土地所有者の理解を得るために急遽作成したもので、略測図であるが、概要を把握できた。作成は、平成20年12月16日に実施した。

上記が縄張図であり、南北53m、東西57mの規模を有し土壘と堀で構成される。北東の一部に土壘がないことから、入口と考えられる。西方の堀が最も深く、保存状態も良好である。底面と上場の比高差は約2mある。

形態は単郭式の平城に分類され、東南置賜地方では約20箇所確認されている。当地方では最も多く存在したと考えられ、半町四方(50m)前後を主体とする。

扁形型の方形から発展したものと考えられ、年代的には、16世紀頃に出現する形態と推測される。

### 第III節 南部地区分布調査

南部地区的分布調査は、平成20年12月1日～同年12月10日までの期間で実施した。南部地区には、米沢の市民の山として知られる斜平丘陵が立地している。遠く吾妻山陵から突き出た長峰は、南から標高605mの栃窪山、標高660.2mの笠野山、夏の火祭りで有名な標高559.68mの愛宕山と標高534.1mの羽山と続いている。

斜平丘陵の末端部には、県営御成山ジャンプ台があり、南側に張り出したながらかな尾根の先端部の中腹から、山麓と羽山から東方向にのびる尾根に沿って流れる北沢によって形成された小扇状地一帯には、覚範寺跡が分布する。

斜山丘陵一帯は、携帯電話中継地の建設、資材運搬道路の整備等が行われた。それに伴って、伐採された箇所もあり、一部土砂が流出した箇所も認められた。第30図に示した箇所で塚を確認した。

北方の①地点は、尾根の先端に構築され周辺には須恵器窯跡も確認されている。塚の形態は、約3mの円形で無段、高さは1.5m前後を測る。

②は、羽山神社に通じる山道が急カーブする直下にあり、楕円形で高さは1mを測る。周辺を踏査したが、この1基だけであった。長さは5mを測り、今回確認した塚群では大型である。

③は、愛宕神社から西側に張り出す尾根の先端に構築された楕円形の3mの小規模な塚であり、高さは1mを測る。この塚の東側に隣接して④があり、③と同様な規模の塚である。

これらの塚は、立地から判断して信仰に関連する塚群と考えられる。

愛宕山東南部についても、踏査を実施している。第30図で示す愛宕前沢南方に広がる一帯である。現在は、雑木や杉林に覆われているが、数十年前は大半が畠であった様相であり、その変容は驚くばかりである。雑草や残雪のため遺物は確認されなかった。

平地の館山五丁目から館山一丁目さらに遠山町の山麓に近い地域についても分布調査を実施している。

この一帯は果樹園、水田、畠であったが、休耕田や栽培を放棄した果樹園が多く雑草が多い茂り、歩行するにも困難な状態であった。山麓同様に遺物の発見はなかった。

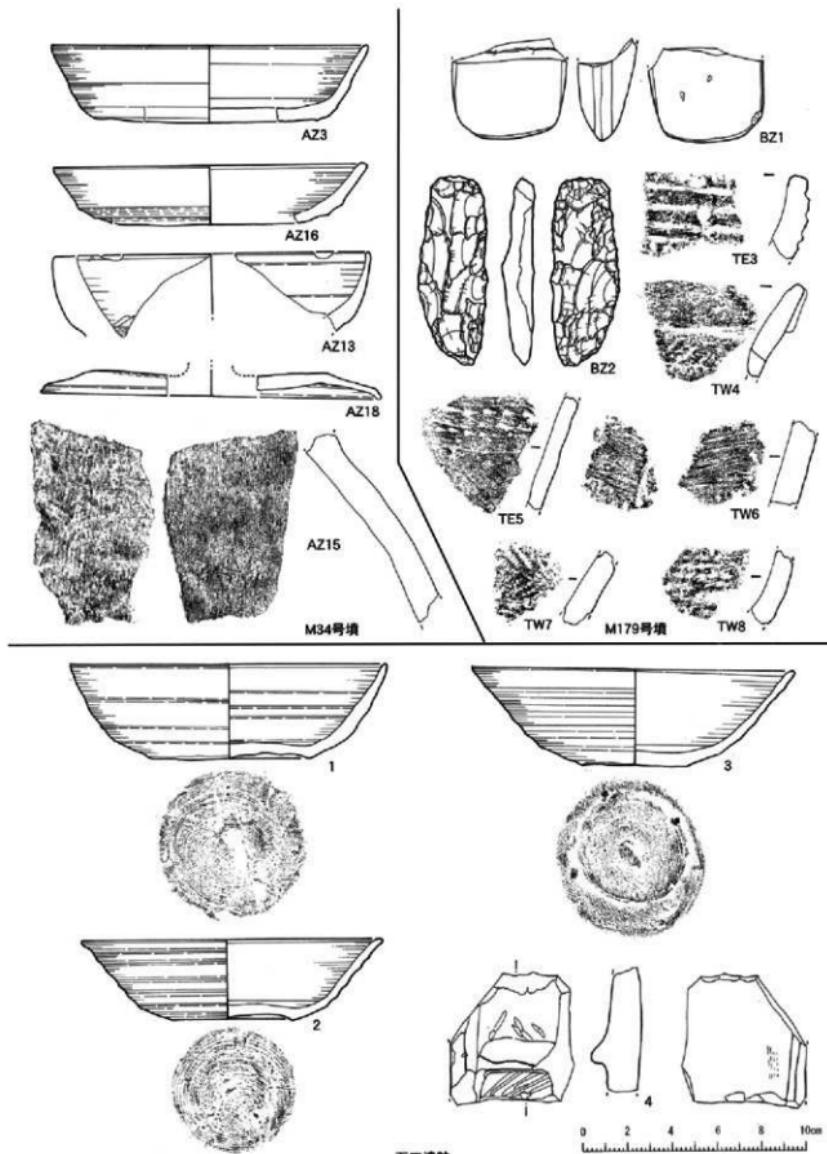
図の範囲には、記載していないが、松川流域についても実施している。これらの地域についても、休耕田が多く認められ、昭和62年度から開始し、確認した遺跡の現況が変化していくことは明らかである。

最後に今年度の分布調査によって出土した遺物について述べる。第31図に示したのが出土遺物であり、縄文時代早期～平安時代の遺物群である。縄文時代の遺物は山崎古墳群M179号墳の周溝覆土から出土している。

金ヶ崎古墳群M34号墳の墳丘表土を中心とした出土遺物は須恵器壺、蓋、甕片があり、奈良時代中葉に位置する。平安時代の遺物は、石田遺跡の出土であった。第31図4は風字硯の破片である。石田遺跡からは、整理箱で3箱分の遺物が出土しており、図示した以外では須恵器の壺片、甕片、内黒土師器壺、土師器甕片が認められた。



第30図 米沢市南部地区分布調査箇所位置図



第31図 詳細分布調査出土遺物実測、拓影図

## 報告書抄録

ふりがな	いせきしょうさいぶんぶちょうさほうこくしょ
書名	遺跡詳細分布調査報告書
副書名	第22集
卷次	
シリーズ名	米沢市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第96集
編著者名	菊地政信
編集機関	米沢市教育委員会
所在地	〒992-0012 山形県米沢市金池三丁目1-55号 TEL (0238) 22-5111
発行年月日	西暦2009年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
戸塚山 かねがさき 金ヶ岬 こふんぐん 古墳群 やまとき 山崎 こふんぐん 古墳群	よねざわし 米沢市 あさがわ 浅川	6202	A 32 A 38 I 669	37度 54分 56秒	140度 9分 35秒	2008404 ~ 20090331		詳細分布 調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
いしだいせき 石田遺跡	古墳 集落跡	古墳時代 平安時代		須恵器片 土師器片	階段が周辺にある横穴式古墳の測量調査 石田遺跡は今年度新発見の遺跡である。

# 写 真 図 版



▲石田遺跡調査区全景（北方から南西を望む）



▲石田遺跡調査風景



▲石田遺跡 トレンチ試掘状況



▲石田遺跡 遺物出土状況



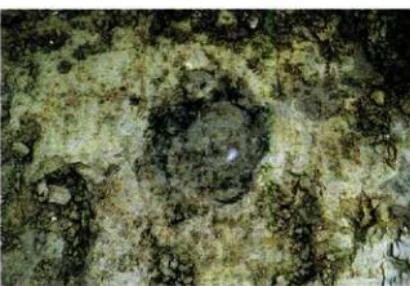
▲古郷部遺跡 トレンチ試掘状況



▲古郷部遺跡 トレンチ試掘状況



▲広幡町成島地内トレンチ試掘状況



▲広幡町成島地内 遺構出土状況



▲戸塚山金ヶ崎古墳群 M34 号墳 遠景



▲戸塚山金ヶ崎古墳群 M34 号墳 玄門部より石室部を望む



▲戸塚山金ヶ崎古墳群 M34 号墳 墓道入口近景



▲戸塚山金ヶ崎古墳群 M34 号墳 玄門近景



▲戸塚山山崎古墳群 M179 号墳 南東方から南西を見る



▲戸塚山山崎古墳群 M179 号墳 トレンチ W 完掘状況



▲戸塚山山崎古墳群 M179 号墳 試掘箇所近景



▲戸塚山山崎古墳群 M179 号墳 トレンチ W 断面状況 北方より望む



▲大字笠野字柏平地内 重機によるトレンチ試掘状況



▲大字笠野字柏平地内 トレンチ試掘状況



▲中田町字外ノ内地内 試掘調査区全景



▲中田町外ノ内地内 重機によるトレンチ試掘状況



▲前在家遺跡立合い状況



▲小谷地遺跡立合い状況



▲谷ノ口館現況



▲石田遺跡出土遺物

米沢市埋蔵文化財調査報告書 第96集

**遺跡詳細分布調査  
報告書**

平成21年3月29日 印刷  
平成21年3月31日 発行

発行 米沢市教育委員会  
米沢市金池三丁目1-55  
TEL (0238) 22-5111  
印刷 有限会社みなみ工房  
米沢市諸仏町4866-18  
TEL (0238) 38-4639